



ご挨拶

同窓会会長
松田 英明津市一身田町2843
高田中・高等学校内
樹心同窓会事務局
電話 059-232-2442

同窓会会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より同窓会活動並びに母校の発展に格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

前会長の志田行弘様が昨年十二月二十七日に急逝されました。高田学苑の理事であり、長年樹心同窓会の役員を務められ、昨年四月より会長に就任されたばかりでございました。樹心同窓会を大いに発展させるべく動き出した矢先のことであり、誠に残念な出来事でございます。衷心より哀悼の意を表します。

そこで急遽、樹心同窓会運営委員会におきまして、新会長として私が選出され、本年二月二十六日の役員会にてご承認をいただきまして、正式に樹心同窓会会長に就任いたしました。浅学非才の身ではございますが、誠心誠意努めさせていただきます。

私は、昭和四十五年卒業の六年制一期生でございます。六年制は今年六十三期生を迎えることとなりました。ようやく高田学苑の百五十年を超える歴史のページとなれたように思います。残念ながら、本年度東大合格者数では高田高校六名に対し県立四日市高校は十七名と大きく差をつけられております。

一方、三年制の躍進は目覚

ましく、本年度国公立大学には五十五名の合格者が出ました。三重大学には二十一名が合格いたしました。本年度より高校授業料の無償化が実施され、さらに優秀な生徒が高田高校に入学してくるようになると思います。今後十年以内に三年制の生徒が東大に合格する日が訪れることになる

と確信いたします。

本年度の卒業生数は概数で高校三年制が四百名・六年制が二百名・短大が二百名でございます。圧倒的多数の卒業生(県立高校は三百名あまり)を輩出し、そのすべてが終身会費を納入し樹心同窓会会員となります。毎年約八百名の新会員が入会する同窓会でございます。

の制度をご活用いただきミニ同窓会の開催をお願いいたします。

毎年八月の第一日曜日に開催されます樹心同窓会総会にはより多くの同窓生に出席いただけるよう主催者一同色々な企画を考えて参ります。当面出席者数の目標は三百名でございます。それが達成できれば次の目標は四百名といたします。最後は、同窓会が祭り騒ぎとなることを夢見ております。

格する日が訪れることになる

と確信いたします。

本年度の卒業生数は概数で高校三年制が四百名・六年制が二百名・短大が二百名でございます。圧倒的多数の卒業生(県立高校は三百名あまり)を輩出し、そのすべてが終身会費を納入し樹心同窓会会員となります。毎年約八百名の新会員が入会する同窓会でございます。

樹心同窓会の存在意義について考えてみたいと思います。旧交を温め、若き日を懐かしむことも幸せなことでございます。それだけでは同窓会としての魅力に欠けます。同じ学び舎で、仏教をもととした情操教育を受けたという貴重な体験を通して、世代を超えた仲間の集まりにこそ樹心同窓会の存在意義があると思います。先輩は先輩の面倒を見て、後輩は先輩に長幼の序を尽くすことが肝要です。どの会合に出かけても必ず樹心同窓会の先輩・同級生・後輩がいて「こんにちは」と挨拶ができる環境づくりをして行くことはありませんか？

今後とも、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

新新型コロナウィルス蔓延の環境下で実施されましたミニ同窓会への補助金拠出事業は徐々に成果を発揮してまいりました。これは、六人以上のミニ同窓会を開催した場合、一人当たり千円を補助するものであり、年間予算は百万円(千人分)です。但し、補助の回数は一人年間一回限りです。令和七年度は約七百名の利用がございました。是非こ





ご挨拶

学苑長
梅林 久高

皆様におかれましては、ご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。皆様方が種々な分野でご活躍されていることを伝聞したり、出会ったりしますこと大変嬉しく思います。今後も地域発展と社会貢献、さらには国のためにも精励されることと確信しています。

令和七年に新同窓会長に就任して頂きました志田行弘様が、令和七年十二月二十七日に往生されました。読書好きで博学多才で大変お話が魅力的な会長でした。趣味のレベルを越えたシャクナゲの研究や栽培はプロ級。また、三重県が生んだ映画監督小津安二郎の作品等に精通しその普及に大変尽力をされておられました。同窓会長に就任される

や本会の発展、興隆のためにも種々なアイデアや企画をご提案されその実現に向けて動き出した矢先に逝去されました。無常迅速の世とはいえ誠に痛恨の極みです。ここに謹んで生前のご厚情に感謝申し上げます。

新会長に学苑の理事でもあられる松田英明様に就任して頂きました。氏は現在三重県職業能力開発協会会長の要職にあり、また旭日双光章を二〇二三年に受賞されました。その温厚篤実なお人柄と幅広い人脈により県下の経済振興と地域活性化のために大変ご尽力をして頂いておりますので、同窓会の興隆のためにもそのノウハウを存分に發揮して頂けると思っております。学苑と共に協力し合って本会の運営に当たって参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

学苑の現状等については、

中等高等学校福山校長、短期大学清水谷学長よりの報告をご高覧ください。

全体的な喫緊の課題について少し述べさせていただきます。

ハイスピードで進む少子化の影響下での募集の充実の確保です。高校では今年より授業料無償化が実現しましたが、都市部のように追い風となり私立志向が高まったとはいえません。この無償化は、保護者の授業料負担軽減に大きな支援となりますが公立の生徒への支援との格差はまだまだ大きく開きがあります。県下の私学が一丸となり助成金交付の拡充を国、県に引き続き要望していかねばなりません。

また、短大においては、全国的に短大の募集停止廃止が進むなか本学も募集に苦戦し充足率が下がっています。もとよりその主な原因は少子化の影響と四大志向による短大

離れ、そして学生の職業観の多用化などによるものと思われます。高等教育機関の本学の子ども学科、キャリア育成の少子高齢化や過疎化する中で必須であるエッセンシャルワーカーを育成するコースです。今より一層高性能のひと型ハイテクや生成AIの進保により高度な「介護ロボ」

度を体感させる教育の充実と保護者の方々から一層安心信頼される学苑をめざしていきます。AIの著しい発展進保により教育環境や学び方が大きく変貌しつつある状況の中で、生きる力を身につけるためにも親鸞聖人の教えを建学の精神として豊かな感性と寛容な精神の育成を大切にしなければなりません。

「保育ロボ」「オフィスロボ」の時代の到来も考えられます。やはり、人と人とのやさしい心と笑顔、言葉でつなぐ絆は人間同士であります。人の手は温かいぬくもりがあります。その灯を消すことはできませんので即効薬は未見ですが苦境を打解して参ります。

短大、中高とも募集は学苑全体の運営教育環境の維持に大きな影響を与えますので、積極的に対応して参ります。同時に本学の魅了の深化と可視化をはかり生徒学生の好満足





ご挨拶

中高校長
福山 茂

同窓の皆様には、ますます

ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本校教育活動に対し、温かいご理解とご支援を賜っておりますこと、心より御礼申し上げます。

本校ではこの春も、多くの生徒たちが学び舎を巣立ち、新たな一步を踏み出していきましました。令和八年三月には、高田本山常磐井法主猊下をはじめ、保護者会会長小島しおり様ならびに役員の皆様のご臨席のもと、令和七年度卒業式を挙行いたしました。昨年度の卒業生は、三年制四十一名、六年制一八九名、合わせて六〇〇名。それぞれが仲間や恩師、家族への感謝を胸に、本校で培った学びと経験を携えて新たな道へと進んでいき

ました。

進路面においても、生徒たちの努力は大きな実を結びました。三年制からは五五名

(既卒生三名含む)が国公立大学に合格し、そのうち三重大学には二一名が進学いたしました。I類からも三名が三重大学に合格するなど、生徒一人ひとりが着実に力を伸ばしています。また六年制では、一〇五名(既卒生二九名含む)が国公立大学に合格し、東京大学理Ⅲをはじめとする難関大学へも多数の合格者を送り出しました。国公立大学医学部医学科には三一名、私立大学医学部医学科には延べ七五名が合格し、そのうち一五名(既卒生二名含む)が地元三重大学医学部医学科へ進学しております。

しかし、本校が大切にして

大学に進むか」だけでなく、「どのように生きる人間となるか」を問い続ける教育こそ、本校の根幹にあるものです。

親鸞聖人の教えを礎とする本校では、「言行忠信 表裏相応」の校訓のもと、他者を思いやり、自らの言葉と行動に責任を持つ姿勢を育んでいきます。変化が激しく、先行きの見えにくい時代だからこそ、知識のみならず、人としての軸を持つことの大切さを、生徒たちには日々伝えております。

そうした教育の中で、生徒たちは学習だけでなく、部活動や学校行事にも全力で取り組んでいます。特に新体操部の山本響士朗さんは、令和七年度全国高等学校総合体育大会において全国優勝を果たし、昨年度に続く連覇という快挙を成し遂げました。さらに馬術部は、全日本高校生自馬選

手権大会において全国優勝十連覇を達成するなど、輝かしい成果を挙げています。また、中学放送部は、NHK全国中学校放送コンテスト・ラジオ部門において、タイトル「呼び捨て?さん付け?」が全国一位となる最優秀賞に選ばれました。この作品は、教師が生徒を呼ぶ際、「呼び捨て」と「さん付け」が混在していることに着目し、ジェンダーへの配慮や、一人ひとりの人格を尊重することの大切さを問いかけたものであり、生徒たちが日常の中から社会課題を見つめ、深く考察した姿勢

が高く評価されたものです。さらに、なぎなた部、柔道部、卓球部、陸上競技部、剣道部、軟式野球部、演劇部、文芸部、書道部、科学部電気班、将棋部、囲碁同好会など、多くのクラブが全国大会・東海大会へ出場しております。結果そ

のものもちろん素晴らしいものですが、仲間と励まし合いながら努力を重ねる経験や、失敗や悔しさを乗り越えていく経験こそが、生徒たちを大きく成長させているように感じます。

また、体育祭や文化祭、校外宿泊研修などの学校行事も、生徒たちにとってかけがえのない学びの場となっています。互いを認め合いながら協力し、一つのものを創り上げる中で、生徒たちは多くの喜びや達成感を共有しています。校内に響く歓声や笑顔に触れるたび、本校の教育は教室の中だけで完結するものではないことを実感いたします。

近年、本校では「探究的な学び」を教育の柱の一つとして位置づけています。文部科学省指定のスーパースাইエンスハイスクール(SSH)として、大学や研究機関と連携

した実験実習やフィールドワーク、英語による研究発表など、生徒主体の探究活動を積極的に展開しております。

また、ユネスコスクールとして、SDGs を視野に入れた学びにも取り組み、環境問題や地域文化、多文化共生、平



ご挨拶

短大学長
清水谷正尊

樹心同窓会会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本学の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

この三月に、卒業式(卒業証書・学位記授与式)を挙行し、二四〇名の学生(こども学科一三六名、キャリア育成学科オフィスワークコース六八名、キャリア育成学科介

和、人権など、多様なテーマについて対話を重ねながら学びを深めています。

これからの社会では、単に知識を身につけるだけではなく、自ら問いを立て、他者と協働しながら新たな価値を生み出していく力が求められま

護福祉コース三六名)が本学を巣立っていきました。

また、就職状況につきましても、就職率九九・五%と例年通り好調を維持することができました。これも、同窓生の皆様が各分野でご活躍され、本学への厚い信頼を築いてくださったている賜物であり、深く感謝申し上げます。

なかでも、公務員関係の進路決定者は昨年度以上に好調でした。まず、子ども学科では、保育士・幼稚園教諭職として、卒業生二名を含む三七名が公務員試験に合格して正規採用

す。本校では、「なぜだろう」「本当にそうなのか」と考え続ける姿勢を大切にしながら、生徒一人ひとりが自らの可能性を広げていける教育を目指しております。

令和八年度には、高校三九七名、中学校一八七名の新入

され、加えて会計年度任用職員(事務補助を含む)として十七名が採用されました。また、オフィスワークコースでは卒業生一名を含む四名が公務員試験に合格して正規採用され、介護福祉コースでは会計年度任用職員として一名が採用されました。公務員対策講座を開講するなど、公務員試験対策に力を入れてきた本学の取り組みが、着実に実を結んでいることを嬉しく思っております。

本年度は、子ども学科一四一名、キャリア育成学科

生を迎えました。新しい仲間たちもまた、本校でのさまざまな学びや出会いを通して、それぞれの個性を大きく花開かせてくれることと思います。

卒業生の皆様が築いてくださった伝統を大切に受け継ぎながら、これからも教職員一

オフィスワークコース四二名、キャリア育成学科介護福祉コース二八名、合計二二一名の新入生を迎えてスタートしました。定員二五〇名に対し、充足率八四・四%となっております、学生募集につきましては、なお一層努力していかなくてはならない状況にあります。

そのような中、募集強化の一環として、本年三月二五日には伊賀白鳳高等学校と高大教育交流協定を締結いたしました。これにより協定校は二十校となりました。また五月十一日には伊賀市と包括的

同、生徒たちの成長を支える教育に全力で取り組んでまいります。今後とも母校への変わらぬご支援、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓の皆様ますますのご健勝とご多幸を、心よりお念じ申し上げます。

な連携協定を締結し、協定市は五市となっております。高校との高大連携をさらに深めるとともに、行政とも連携を強化することで、保育士や介護福祉士などの仕事の魅力を広く発信し、学生募集につなげていきたいと考えております。

また、昨年十二月八日には、本学を会場として、三重県高等学校情報教育研究会主催、LEGG三重共催のイベント、「みんなで創る みんなの学びフェス in Mie 2025」が開催されました。ICTや

AIの活用を牽引する三重県内外の先生方が本学に集い、活発な情報交換が行われ、大変有意義な機会となりました。加えて、本学の教育活動や学内の様子を県内高校の先生方に知っていただく良い機会にもなったと感じております。

入学した新入生たちは、新たな学びへの期待を胸に、日々元気に学生生活を送っており

ます。入学式後には、新入生全員で本山参詣を行いました。国宝である御影堂や如来堂を

参拝して、親鸞聖人の教えの一端に触れるとともに、本学の建学の精神への理解を深める貴重な機会となりました。

また、四月十六日には日硝ハイウエアリーナ(サオリーナ)において新入生研修を実施し、レクリエーションなど

を通して、学生同士や教職員との親睦を深めました。

本学には外国人留学生や委託訓練生、また身体的な事情や発達に特性のある学生など、多様な学生が在籍しております。「みんなちがって、みんないい」という「やわらか心」を教育理念とする本学では、教職員が力を合わせ、一人ひとりの学生に寄り添いながら、

丁寧な支援と教育に取り組んでおります。今後とも、同窓生の皆様の変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、本学では、津市のふるさと納税「ふるさと津かがやき寄附」制度を活用したご支援をお願いしております。昨年度は「ふるさと津かがやき寄附私立学校応援交付金」

として十八万九千円の交付を受け、大講義室および視聴覚室のホワイトボード整備費用の一部に活用させていただきました。いただいたご支援は、

学生の教育・研究活動の充実や教育環境の整備等に大切に活用させていただいております。こちらの方もぜひ温かいご支援をお願い申し上げます。

新任教職員紹介

- 一、氏名
- 二、担当教科・部署
- 三、趣味・特技
- 四、着任のことば

中・高等学校

一、大鳥居 悠貴

四、清々しい春の光の中、歴史ある本校の一員として新たな一歩を踏み出せますこ

とを、心より光栄に存じます。この度、教員として着

任いたしました四十三期卒業生の大鳥居悠貴です。社

会人として十年の節目を迎え、そのうち五年間は公立

中学校にて教鞭を執つてまいりました。慣れ親し

んだこの学び舎に、経験を積んだ教員として戻れたこ

とに深い縁を感じております。

す。本年度は中学一年歴史と高校Ⅱ年日本史探究を担当いたします。私は授業の時間が大好きで、初授業の後に生徒から「何か良いことあった?めっちゃ笑顔やな」と声をかけられたことがありました。皆様との

対話を重ね、共に学びを深めていく時間にとってもワクワクしております。趣味はデイズニー、野球、F1観

戦、特技のクリケットなど

多岐にわたります。教科以外のことでも休み時間等に楽しく語り合えれば幸いです。母校への報恩の志を胸に、誠心誠意邁進する所存です。どうぞよろしくお願

い申し上げます。等学校でお世話になっております。多くの先生方に助けてもらいながら、日々さ

一、土肥 優理香

二、英語科・中学一年生副担任

三、料理・ドライブ・ジム

四、本年度より、高田中・高

を担当し、中学一年生および中学二年生の一部クラスの授業を受け持っております。生徒たちの活発さに日々刺激を受けながら、楽しく授業に取り組んでおり

ます。私の方も、生徒に良い影響を与えられるような授業ができるよう精進してまいります。

学生時代にお世話になった高田学苑に、教員として再び携わることができ、大変光栄に思っております。まだまだ未熟ではございますが、一人前の教員となれるよう精いっぱい努めてまいりますので、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

一、木村 誠

二、体育科

三、陸上競技 100m、200m を大学から引き続き、選手として継続するため良い記録を残せるように頑張ります。

四、学校には徐々に慣れてきましたが授業に関しては、まだまだ未熟でうまく行か

ないことばかりですがこれ彼頑張っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

一、野浪 藤代

二、樹心同窓会購買部

三、最近は YouTube をみてミシンで布の小物を作る

四、本年度より高田学苑樹心同窓会購買部でお世話になっております。これまで金融機関で長く勤務していましたが、全く環境の違う職場で勤務することになり、戸惑いと緊張の日々を送っております。

はじめて学苑を訪れた時、見ず知らずの私に対しても気持ちよく挨拶をしてくださった職員の方々にお会いして、「安心感」と「親しみ」を感じたのが第一印象です。二か月近く経ちましたが、

その挨拶は学苑の習慣であることがよくわかりました。

購買部員として生徒の皆

さんと接することが多々ありますが、自分自身も笑顔で挨拶することを心がけていきたいと思えます。

まだまだ至らない点も多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

短 大

一、小倉 和也

二、高田短期大学 キャリア

育成学科介護福祉コース

四、この度、四月より高田短期大学に着任いたしました。専門分野は介護福祉、保健福祉、ならびに留学生教育です。

これまでは、徳島県で介護福祉士の養成教育に携

願い申し上げます。

一、松下 昌史

四、このたび、高田短期大学

キャリア育成学科オフィスワークコースに着任いたしました松下昌史と申します。

趣味は各地の名所に行き、おいしい食事などを楽しむことです。三重県には魅力ある場所や食材も多いと伺っています。これから三重県各地への外出も楽しみたいと思っています。

介護福祉の分野では、確かな技術はもちろんですが、「人」に対する理解と温かな眼差しが求められます。伝統ある高田学苑の環境の中で、学生の皆様が心豊かな人間力を育み、実践的な力を身につけられるよう、これまでの経験を活かして全力でサポートしていく所存です。

皆様、どうぞよろしくお

出身は東京都ですが、これまで愛知、新潟、福岡と足を踏み入れました。専門は経営学や地域経済学、地方創生の分野で、地域活性化、社会的企業や社会起業に関心があります。趣味は、「リラクマ」や「すみっこぐらし」、「ちいかわ」、「シナモロール」などのキャラクターグッズの収集と「ぬい撮り」です。

学生にとって大学生活は、社会へ巣立つための通過点にとどまらず、これからの長い人生と職業生活を支える基盤を養う、重要な形成

期であると考えています。

日々の授業では、他者との協働を通じて、学生が自ら考え、迷いながらも自分なりの意味を見いだしていく過程を大切にしていきたいと思います。まだ学ぶことも多い立場ですが、学生の皆さんとともに成長できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

一、金森 まさ子

二、高田短期大学 子ども学科
三、美術館巡り・編み物・庭いじり

四、本年度より再び子ども学科で講師として務めさせていただきます。現場での経験を活かし、保育内容の実践や子育て支援について学生に伝え、質の高い保育者の育成に努めてまいります。また、本学が行っていま

すきめの細かいキャリア支援、学生への援助は一人一人を大切にしたい保育と同じであると感じます。教職員の皆様と力を合わせ、人間性豊かな保育者として社会で活躍できますよう学生を支援していきたいです。幼児教育の父といわれる倉橋惣三氏の言葉に「育ての心」があります。子どもを育てて、自らも育つことを心に自身もまた学生たちと共に学びを広げ励んでいきたいと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

一、久野 嘉也

二、キャリア支援センター
三、仕事中毒からの脱却を目指す。
四、今年度四月よりキャリア支援センターでお世話になっていきます。三月までは県立高等学校長を務めてい

ました。ただ、教諭、教頭、校長として、それぞれ

一校ずつしか現場での経験はありません。残りは県教育委員会事務局の複数課で教育行政に携わってきました。したがって、これといった特徴がある訳ではありません。しかし、「人間万事塞翁が馬」を心の拠り所として、目の前の仕事に懸命に取り組んできたと自負しています。これからは、本学学生のキャリア支援に力を尽くしていきたいと考えています。大学生は、高校生とは意識が大きく異なるかもしれませんが、一人ひとりの主体性を尊重しつつ、寄り添ったサポートに努めたいと考えていますので、温かいご指導をよろしくお願いします。



進路指導

高校進路指導部

令和八年三月一日、三年制411名、六年制189名、合わせて600名の卒業生を送り出し、新たに樹心同窓会に加えていただきました。今年卒業した生徒たちには、AI活用が企業活動だけでなく、学校業務、生徒自身の学習にも活用されるようになり、入学時とはまったく異なる社会が急速に目の前に現れてきたのではないのでしょうか。まさに急激に変化していく社会に対応することを意識しながらの進路選択であり、受験にあつては、生徒自身が学力だけでなく自ら社会とかわつていく力を問われたように思います。今春の卒業生と既卒者を含めた、進路結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

〔進路状況〕

令和七年度の全体・三年制・六年制の進路結果は次の通りです。

令和8年度入試進路状況

進学 合格者延べ数（既卒者含む）						令和8年4月				
		3 年 制				小計	6 年 制		小計	合計
		Ⅰ 類		Ⅱ 類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
4 年制 大 学	国 立	4	0	30	1	35	58	23	81	116
	公 立	0	0	18	2	20	14	5	19	39
	私 立	153	0	314	21	488	314	140	454	942
文部科学省所管外		0	0	0	0	0	4	1	5	5
海 外		2	0	0	0	2	1	0	1	3
短 大	公 立	9	0	6	0	15	0	0	0	15
	私 立	21	0	2	0	23	0	0	0	23
国公立各種・専門学校		3	0	2	0	5	0	0	0	5
私立各種・専門学校		29	0	11	0	40	0	0	0	40
就 職		5	0	2	0	7	0	0	0	7

過去5年間の合格者推移 3年制

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
卒 業 生	385	379	355	392	411
国 公 立 大 学	25	36	30	39	55
私 立 大 学	511	520	577	498	467
短 期 大 学	56	46	58	27	30
海 外 大 学		0	0	0	2
各種・専門学校	75	56	51	50	34
就 職	3	10	4	7	6

京都産業大学 14名

愛知工業大学 14名

愛知学院大学 17名

龍谷大学 17名

名城大学 23名

中京大学 28名

皇學館大学 54名

鈴鹿医療科学大学 74名

ほく国公立大学 29名

愛知教育大学 3名

名古屋市立大学 1名

名古屋工業大学 1名

金沢大学 1名

神戸大学 1名

三重大学 21名

主な大学進学先

○三年制

早稲田大学

3名

同志社大学

4名

立命館大学

4名

関西大学

5名

関西学院大学

4名

○六年制

主な大学進学先

東京大学

6名

京都大学

5名

大阪大学

5名

一橋大学

1名

東京科学大学

3名

名古屋大学

8名

北海道大学

1名

九州大学

2名

神戸大学

4名

三重大学

17名

ほく国公立大学

48名

早稲田大学

27名

慶應義塾大学

5名

東京理科大学

17名

上智大学

8名

明治大学

11名

過去5年間の合格者推移 6年制

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
卒 業 生	179	179	199	183	189
国 公 立 大 学 (全体)	115	110	126	95	105
国 公 立 大 学 (現役)	88	83	107	75	76
私 立 大 学	510	510	518	359	451
海 外 大 学		0	2	0	1
医学部医学科(私立大学含)	64	63	77	64	106

※防衛大、防衛医大は国公立大学に含む

中央大学 8名

同志社大学 39名

立命館大学 54名

関西学院大学 36名

今年度の入試は、新教育課程

二年目となり、昨年度の新課程

初年度の易化の反動がありまし

た。初年度を基準とすれば難易

度が増したと言えますが、今年

の基準こそ新課程の共通テスト

の今後の基準となるものだと考

えます。難化して自信を失うか

に見えた本校の生徒たちは、翌

日明るく登校してきました。点

数が伸び悩んだ生徒も、最後ま

であきらめずに果敢に挑戦して

いきました。今年度の三年制、

六年制の進学実績はまさにこう

した生徒たちが勝ち取ったと言

える誇らしいものであります。

昨年度入試のトピックスとし

ては、今年度、目標に掲げた数

字を一年であっさり達成して

いることです。三年制は、つい

に国公立大学へ五十五名(既卒

生三名含む)の合格者を出し、

進学校として誇れる実績を残し

ています。地元三重大学へは

二十一名が合格、難関大学の神

戸大学、難関関の金沢大学、ま

た名工大の合格も手にしていま

す。さらに今年I類からも三重

大三名を含め、四名の国公立合

格を出しており、どのコースか

らでも一人ひとりの志望に応じ

た進学サポートができています

と考えております。

六年制では、今年も多くの生

徒が医学部医学科を志望し、合

格しています。国公立大学医学

科三十一名と昨年と同数、私立

大学医学科では延べで七十五名

の合格と昨年を上回っており、

医学部受験における合格数、現

役合格率は県下トップ、全国で

も高位に位置する成績です。ま

た今年は、東京大学(理Ⅲを含

む)、京都大学、大阪大学、名

古屋大学などの難関十大学の合

格数も戻しており、安定して幅

広い志望に対応した進路指導を

実現できております。今後の六

年制の目標は、地域医療、ひい

ては日本の医療の未来を担う人

材を育て、この高い医学部合格

数を維持さらには拡大すること、

世界を意識した広い視野をもつ

た生徒を育て、夢を実現するべ

く難関大学への志望者、合格数

を拡大させること、そして生徒

一人ひとりが自分の関心に応じ

その能力を発揮できるよう、幅

広い分野で活躍できる国公立大

学の現役合格数を一〇〇以上と

することでありま。一人ひと

りをしっかりと伸ばし、浪人

ではなく現役にこだわった、細

やかで丁寧な進路指導を続けて

いきたいと考えています。

中・高部活動

■中・高男子柔道部

【令和八年度部員数】

中学生

三年生 一名 計一名

高校生

Ⅲ年生 四名

Ⅱ年生 一名

Ⅰ年生 六名

四年生 二名 計十三名

二〇二五年度

全日本強化選手選考会

出場

第七十五回三重県高等学校

柔道選手権大会

男子団体 準優勝

【最近の諸大会成績(上位入賞のみ)】
第七十五回三重県高等学校
柔道新人大会

男子団体 三位

男子個人 無差別級 優勝

二〇二五年度三重県高等学校

強化選手選考会

男子個人 九〇kg級 三位

一〇〇kg級 優勝

第四十八回全国高等学校

柔道選手権大会

出場



■中・高馬術部

執筆 六年a組 水谷 さわ

馬術部は、現在高校生二十四人(三年四人・二年六人・一年十四人)、中学生二十三人の計四十七人で活動しています。

令和七年度は、東海地区団体戦予選で、第五十九回全日本高等学校馬術競技大会への出場権を獲得することができました。

また、十二月に馬事公苑(東京)

で行われた第十回全日本高校生自馬選手権大会において、団体総合十連覇を成し遂げることができました。これらの成果はすべて、保護者・OBの方々をはじめとした皆様方のご声援があつてこそだと感じております。

今年度は、第六十回全日本高等学校馬術競技大会への出場権を獲得し、優勝を目指します。

また、馬術部としての最大の目標でもある「日本一の馬術チーム」の姿を体現できるように、日々の学校生活と練習の両立に励んでいく所存です。

今後も、高田学苑馬術部の伝統を受け継ぎ、OB・同窓会員の皆様により結果のご報告がで

きるよう努力してまいります。これからも皆様の変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。

■中・高文芸部

文芸部は、高校文芸部員十五名と中学文芸部員四名とが一緒に活動しています。昨年度も多くの全国大会に出場し、賞をいただきました。

○第四十九回全国高校総合文化祭香川大会(七月二十六日)

二十八日)に、神田実咲さんが短歌部門の三重県代表として出場しました。

○第二十回全国高校生短歌大会(八月十五日～十七日)が盛岡市で開催され、神田実咲さん、櫻井つむぎさん、豊田拳司さん、樽松望乃さん、高

取ゆりさんの四名が予選を突破し、本戦に出場しました。団体戦では決勝トーナメントに行きませんでしたが、個人戦では樽松さんが最優秀賞に輝きました。

○短歌道場in郡上(八月三十一日)が岐阜県郡上市にある古今伝授の里フィールドミュージアム短歌の里交流

館で開催され、櫻井つむぎさん、高取ゆりさん、尚星音さんの三名が出場し、尚さんが古今伝授の里フィールドミュージアム名誉館長賞をいただきました。

○第七回万葉の郷ととりけん全国高校生短歌大会(十一月八日)が鳥取市で開催され、樽松望乃さん、高取ゆりさん、豊田拳司さんの三名が出場し、団体戦で準優勝の成績を収めました。

○第四十回全国高等学校文芸コンクール(表彰式十二月十三日)では、神田実咲さんが短歌部門で優秀賞、樽松望乃さんが入選、豊田拳司さんが詩部門で入選を果たしました。今年も多くの大会に出場し、優勝、最優秀賞受賞を目指して意欲的に取り組んでいきます。

■中・高美術部

私たち美術部は、中学生七人、高校生二十七人の計三十四人で活動しています。

新入生が中高合わせて七人入部し、熱心に創作活動に勤しんでいます。

私学展や学内展示、公募展などへの作品発表、芸術系大学への進学を目標に、みなそれぞれ集中し頑張っています。

昨年度は高田本山におけるお七夜において竹あかりのデザインや寺内町の館にて展覧会、三人の部員がアルコ株式会社様からのご提案で移動型水洗トイレの外装をデザインするなど、学内以外でも様々な作品を発表する機会がありました。今後もこのような機会を頂いたら積極的に制作に励んでいきたいと考えています。最後に私学展は今年度も一月に行われる予定ですので、是非足を運んで頂けるとありがたいです。

■中・高俳句部

本校には、中学俳句同好会と高校俳句部があります。文芸部の活動の一つとして俳句に取り組む学校が多い中、「俳句部」という名前で活動を行っているのは全国的に珍しいことです。この名前を守りながら、現在は中高合わせて三人で活動しています。

私たちの目標は、毎年愛媛県

松山市で開催される全国高等学校俳句選手権大会、通称俳句甲子園の全国大会に出場し、成績を残すことです。俳句甲子園は

ダイバートによって勝敗が決定します。そのため、良句を創作することだけでなく、鑑賞し表現し、討論することにも重きを置いて練習に取り組んでいます。

俳句部は過去二十年間のうち、十五回全国大会に出場しました。そして、準優勝や第三位という成績を修めたこともあり、予選どころか、人数が集まらず、大会に出られない年もありました。まずは、一人でも多くの人に俳句の魅力を知ってもらえるように、努力し続けたいと考えています。そして、今年こそは全国大会に行く、松山という地で多くの質の高い句と出会いたい、このような気持ちを持って、部員全員と切磋琢磨して精進して参ります。

■中・高数研部

数研部です。本年度も部員一同、それぞれの目標達成に向けて日々研鑽を積んでいます。私

たちの活動は、主に「プログラミング」と「数学オリンピック対策」の二本の柱を中心に展開しています。

プログラミングの練習は本館四階のOA室にて実施しており、主にC++を用いたアルゴリズムの実装など、実践的かつ高度な課題に挑戦しています。一方、数学オリンピック対策は第二体育館三階の部室で行い、過去問や難問の探究を通じて、多角的な数学的思考力を磨いています。活動時間は平日の放課後から18時まで、学年の垣根を越えて切磋琢磨する毎日です。

今年度は、国際情報オリンピック(IOI)や国際数学オリンピック(IMO)への出場そしてパソコン甲子園本選への進出を大きな目標として掲げています。昨年度も情報オリンピックで敢闘賞を受賞するなど、着実に成果を積み上げてきました。過去には両大会の本選出場者、国際大会出場者を輩出しており、その伝統を受け継ぎつつ、さらなる飛躍を目指しています。現在の部員数は中高合わせて四十六名です。今年度は高校I

年生に九名、中学1年生に五名の新入部員を迎え、活気あふれるスタートを切る事ができました。個々の知的好奇心を大切にしながら、部全体としてさらなるレベルアップを図ってまいります。引き続きご指導ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

■中・高放送部

「伝える力がつないだ

全国への道」

Ⅲ年四組四席 大平 真季愛

放送部は中高合わせて七十七名で活動し、「伝える力で人の心を動かしたい」という思いのもと、全国の舞台で自分たちの表現を届けることを目標に日々練習に励んでいます。今年の第七十二回NHK杯全国高校放送コンテストのテレビドキュメント部門で全国四位をはじめ、多くの部門で成果を出し、当時六年生の稲地みさきさんがアナウンス部門で三重県史上初の全国決勝へ進出するという歴史的な結果を残しました。さらに、第

四十二回NHK杯全国中学校放送コンテストのラジオ番組部門で二年連続の全国一位(二連覇)を達成しました。また、Panasonic主催のKWN日本コンテストでは高校生部門で優秀賞を獲得し、部全体が大きな喜びに包まれました。

日頃の練習では、アナウンス班と機材班に分かれ、活動しています。アナウンス班では原稿を読み合い、表現や伝え方について意見交換を重ね、一人ひとりが課題と向き合っています。機材班ではカメラや音声、編集や構成について学び合い、技術向上に努めています。こうした積み重ねと支え合いが、今回の結果につながったと感じています。

全国大会では、各校の個性と情熱にあふれた作品に触れ、放送の奥深さを実感し、同じ目標に向かう仲間存在を感じ、大きな刺激を受けました。自分たちの作品がスクリーンに映し出された瞬間、これまでの努力や仲間との時間がよみがえり、胸が熱くなったことを覚えています。

私は今回、テレビドラマとア

ナウンスの二部門に挑戦しました。ドラマでは主人公として表に悩みながら試行錯誤を重ね、アナウンスでは原稿の推敲と練習を繰り返しました。簡単ではありませんでしたが、仲間や顧問の先生、そして樹心同窓会の皆様の支えがあったからこそ最後までやり切ることができました。心から感謝しています。

この経験を通して、伝えることの難しさと言葉の力を実感しました。これからも一つひとつの活動を大切に、自分の声と表現で人の心に寄り添えるよう努力を続けていきます。応援よろしくお願いします。

■中学軟式野球部

私たち中学軟式野球部は、三年生十四人、二年生十四人、一年生二十人で活動しています。木曜日以外の平日と土日で練習や練習試合に励んでいます。

私は野球というスポーツにおいて大切なことは、「声」と「リスペクト」だと思っています。例えば相手チームが盗塁を仕掛けたときにフィールド内の選手はもちろんですが、ベンチの選

手が声を出すことによって、捕手や三塁手などが素早く反応でき、アウトにできる確率も高くなると思います。また、声を出すことによってチームの士気が高くなります。私たちのチームは四十八人部員が所属しており、たくさん声を出せることがチームとしての強みです。メンバーの一人一人をリスペクトすることと信頼関係が生まれ、プレーに百パーセントの力を出せると思います。また、京都や静岡のチームと試合をすることがあるのですが、相手にリスペクトすることによって私たちのチームにも良い影響を与えていると思います。

練習で主に取り組んでいるメニューは、守備練習です。バツティング練習も、もちろん取り組んでいますが、どれだけ優れたバッターでも四割ほどしか打てません。しかし、守備の確率は十割にできます。野球はより多くのミスをしたチームが負けると思っているので守り勝つ野球を目指して、守備の確率を上げるために日々、守備練習に取り組んでいます。

これらのことをメンバーが一生懸命取り組んでいるので、津市春季大会で三位になりました。夏に県大会に出場し、優勝するために継続していきたいです。

中学軟式野球部主将

3b 横山 真大

■中学バスケットボール部

現在、中学バスケットボール部は男子二十三名、女子二十七名の計五十名が所属しており、主に第三体育館にて活動しています。

男子チームは、現二年生が昨年度三月の一年生大会で優勝を果たしました。三年生もそれに刺激を受けて奮起し、着実に力をつけています。また、高等部との合同練習を定期的に行うなど、常に高い強度で練習に励んでおり、県大会出場を狙えるチームへと成長しました。夏の中体連では、これまで積み重ねてきた努力を信じ、自信を持って全力でプレーし、目標である

県大会出場を勝ち取ってほしいと願っています。

女子チームは、明るく活気ある雰囲気の特徴で、三年生十一名を中心に日々練習に励んでいます。中学から競技を始めた生徒ばかりのチームですが、向上心が非常に高く、時には男子以上の走り込みも見えます。三年生にとって最後の大舞台となる夏の中体連で一つでも多く勝ち上がることを目指し、一丸となって頑張っています。

同窓生の皆様には、バスケットボールを通じて心身ともに成長する生徒たちを、今後とも温かく見守っていただければ幸いです。

顧問一同

■中学女子バレーボール部

現在、中学校女子バレーボール部は三年生四人、二年生五人、一年生一人の計十人で活動しています。公式戦で勝つことを目標に、日々生徒達は切磋琢磨して練習に励んでいます。全員未経験で、公式戦では苦戦しますが、全員で声を出して全力

で攻め続ける高田のバレーボールで、強い相手にも諦めずに戦い続けています。

高校のバレーボールを題材とした人気スポーツ漫画「ハイキュー!!」の中に「毎日やんねん。ちゃんとやんねん。」という屈指の名言があります。結果より過程が大事、結果はあくまでその副産物に過ぎないという考え方で、同じことを継続して毎日やり続けることの大切さを教えてくれる名言です。部活動において、特別なことよりも毎日の積み重ねを大事に指導しています。日々の練習、挨拶、準備片付けなど小さなことを丁寧に続ける姿勢が、最後には大きな力になると信じています。試合で結果を出す選手ほど、見えなところでも手を抜かず、自分にできることを続けています。苦しい場面でも自分を支えてくれるのは、積み重ねてきた習慣です。生徒たちには、一つ一つの行動を大切にできる人になってほしいと思います。試合では常に格上の相手と戦い、苦しい場面が続きますが、日々の習慣を自信に思い切ってプレーし、約

二年半努力し続けてきた新中学三年生が、晴れやかな表情で引退できるように、指導を続けて参りたいと思います。

部活動を通して、本気で取り組むからこそ得られる悔しさや喜びを味わい、生徒が高校、大学を卒業し、社会にでた際にも頑張り続ける糧にしてもらえたら、指導者として嬉しく思います。

最後になりますが、生徒達が部活動を思い切り楽しめる環境を作れるよう、顧問として全力を尽くして参りますので、今後ともどうぞよろしく願います。

■ 中学サッカー部

こんにちは、中学サッカー部です。中学サッカー部にはスローガンが二つあります。一つ目は「賢く・鋭く・勇ましく」。二つ目は「印象・信頼・感謝」です。二つ設定している理由は「サッカーをしている時」と「サッカーをしていない学校生活の時」の目標を作ろうという想いから誕生しました。部活動とは学校生活の一部です。その

ため、サッカー部では「印象・信頼・感謝」という三つの言葉を意識して学校生活を送っています。

明るい挨拶、身だしなみ、姿勢、明るい表情、返事、ものの管理などによって自分に対する他人からの「印象」が変わります。そして、それがサッカー部全体の印象となります。

サッカーは十一人で行う信頼のスポーツです。普段の行動から約束を守る、時間を守る、嘘をつかないことで仲間や先生から「信頼」されるようになります。絆が生まれます。

友達、先生、コーチ、対戦相手、審判、保護者、サッカー用具そしてサッカーのできる環境に「感謝」しなければなりません。感謝するということは、他のことに対して思いやりを持つことにも繋がります。このスローガンを大切にし、サッカーというスポーツを楽しみながら良い結果を残していきたいです。



■ 中学なぎなた部

現在、九名で活動しています。多くの新入生を迎え、活気に満ちた新体制でのスタートとなりました。昨年は、三重県選手権大会兼知事杯の個人の部において、高田中学校として連覇を達成することができました。これもひとえにご家族をはじめ、周囲の方々の支えがあつてこそその成果と深く感謝申し上げます。今年も連覇の継続と、全国大会入賞を目指して精進してまいります。変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。

(顧問記)

【主な戦績】

・第三十九回三重県選手権大会
兼三重県知事杯第十二回三重県小・中学生選手権大会

中学試合の部

優勝 森下 柚希

■ 高校硬式野球部

私たち高田高校硬式野球部は、歴史と伝統のある高田高校硬式野球部の一員としての誇りを持ち「甲子園出場」という目標に向かって日々練習に励んでいます。

す。

昨年度の夏の大会では、現在のチームの選手も多く試合に出場させていただきました。しかし、結果は二回戦敗退となり、先輩方の最後の夏を終わらせてしまったという責任と悔しさを強く感じました。また、秋季大会では県大会二回戦敗退、一年生大会では三回戦敗退という結果に終わり、あと一歩のところ

で勝ち切るできませんでした。だからこそ現在のチームでは、結果だけを求めるのではなく、一人一人が日々の行動を大切にし全員が同じ方向を向いて行動すること、そして最後まで勝ち切ることでできるチームになることを目標にしています。現在のチームは、早い段階から実戦経験を積むことができたことで、技術面だけでなく精神面でも成長することができたと感じています。また、部員数も多く、学年関係なく互いに刺激し合いながら、日々高い意識を持って練習に取り組んでいます。苦しい場面でも声を掛け合い、支え合えることが今のチームの強みです。

マネージャーもチームの一員として、選手が全力でプレーできる環境づくりに努めています。運営や記録、間食作りなどを通してチームを支え、日々の活動の中で、支える立場としての責任や仲間と戦うことの大切さを実感しています。

高田高校硬式野球部には長い歴史がありますが、甲子園出場という目標はまだ達成されていません。だからこそ、その歴史を自分達の代で変えたいと思っています。日頃から支えてくださる先生方、保護者の皆様、そしてOB、OGの皆様への感謝を忘れず、応援してください。方々に良い結果で恩返しができるよう、これからもチーム一丸となって努力してまいります。

■ 高校軟式野球部

高校軟式野球部は本年度一年生十六名、二年生十四名、三年生七名の計三十七名で活動しています。「三重県初の全国大会出場」を目標に、限られた時間の中でいかに質の高い練習ができるかを自分たちで考え、先輩・後輩、経験者・初心者

根を越え、日々切磋琢磨しています。昨年度は東海高等学校総合体育大会軟式野球競技にて準優勝、全国高等学校軟式野球選手権三重県大会にて優勝という結果を収めることができました。

軟式野球部の紡がれた伝統の重みを感じつつ、一戦一戦を全力で戦いぬいた成果だと自負しております。しかし、昨年度の三年生が引退し、新チームで臨む初の公式戦であった三重県高等学校軟式野球秋季大会にて三位、続く秋季東海高等学校軟式野球大会では初戦敗退という結果に終わってしまい、とても悔しい思いをしました。しかし、この二大会を経たことで自分たちの現在地を把握し、足りないものは何か、今後どうしていかなければならないのかを明確にさせることができました。現在は三重県高等学校軟式野球春季大会優勝を目指し、チーム力の向上に励んでいます。チーム力の向上には、技術力向上だけではなく、野球というスポーツを通して生徒一人ひとりの人間力向上も必要要素であると考えています。軟式野球部での経験が人

顧問一同

■高校卓球部

令和八年度三重県高校総体卓球競技兼全国総体兼東海総体三重県予選会が行われました。結果は次の通り。

【中勢地区予選会男女シングルス・男女ダブルスの部】

四月十八日 津市久居体育館

男子シングルスでは、ⅢB伊藤天文 Ⅱ1野崎新太、Ⅱ6寺口優生、Ⅱ6清水俊哉が予選通過。女子シングルスでは、Ⅱ2森田春月、ⅠE里中心愛、ⅠC宮野加奈子、ⅠD丸山江子が地区予選を通過。男子ダブルスでは、Ⅱ1野崎新太・Ⅱ6寺口優生組、Ⅱ6清水俊哉・ⅠB岡野独歩組、女子ダブルスでは、ⅠE里中心愛・ⅠC宮野加奈子組、Ⅱ2森田春月・Ⅱ2森優花組が地区予選を通過。

なお三重県ランキング上位のため、男子シングルスではⅢ2松生翼、Ⅲ3高畑奏斗、ⅡC谷翔真、女子シングルスではⅢ3川合泉穂、Ⅲ1松田聖花、Ⅱ5別所柚里奈、Ⅱ1稲尾花穂、Ⅱ4御村萌々花、男子ダブルスではⅢ2松生翼・ⅡC谷翔真組、Ⅲ3高畑奏斗・ⅢB伊藤天文組、女子ダブルスではⅢ3川合泉穂・Ⅱ4御村萌々花組、Ⅱ5別所柚里奈・Ⅱ1稲尾花穂組、Ⅲ1松田聖花・ⅠD丸山江子組が地区予選免除となり県大会の出場権を獲得しました。

【三重県予選会 ダブルスの部】

四月二十五日 三重交通Gスポーツの杜伊勢

女子ダブルスでは、Ⅲ3川合泉穂・Ⅱ4御村萌々花組が第四位に入賞し、東海総体の出場権を獲得しました。

【三重県予選会 男女シングルの部】

五月二日 三重交通Gスポーツの杜伊勢

女子シングルスでは、Ⅲ3川合泉穂が第四位に入賞し、全国総体と東海総体の出場権を獲得しました。またⅡ5別所柚里奈が第七位に入賞し東海総体の出場権を獲得。男子シングルスでは、Ⅲ2松生翼が第五位、ⅡC谷翔真が第六位で東海総体の出場権を獲得しました。

です。何より、男女が一緒に声を出して応援し、チーム一丸となって戦うという、団体戦の醍醐味を味わうことができ、チーム全体で喜びや悔しさを分かち合いました。目標として掲げている『東海大会出場』までもう少し。とても厚い壁ではありますが、あきらめずにチャレンジを続けていきます。先輩方が残してくれた伝統を引き継ぎ、よりよいチーム作りに今後も励んでいきたいと思っています。

■高校ソフトテニス部

男子はⅢ年生八名、Ⅱ年生八名、五年生二名、Ⅰ年生八名、四年生一名の計二十七名、女子はⅢ年生四名、Ⅱ年生四名、五年生一名、Ⅰ年生七名の計十六名で活動しております。技術の向上だけでなく、人間的に成長することを大切にして日々練習しています。

先日行われた春季大会団体戦では、男子は二回戦敗退となっていましたでしたが、レベルの高いチームに善戦しました。女子は昨年度の新人大会で獲得したベスト8を維持することができ、二大会連続で入賞を果たしました。男女ともに成長を感じられる内容で、今後が非常に楽しみです。

■高校バスケットボール部

私たちは、男子は部員二十九名、女子は部員二十三名で活動をしています。男子は、くなり

たい自分になろうとスローガンに掲げ、県大会ベスト16を目標に励んでおります。今年は安定して県大会に出場できるように、少しずつ結果が出るチームになってきました。昨年よりもミーティングや話し合いを増やし、チームとして同じ方向を向けるように、気持ちの確認を多くしてきました。もちろん、ここまで簡単だったわけではありません。うまくいかない時や、思うように気持ちが伝わらない時もたくさんありました。でも、その中で、チームのために嫌なことも言い合ったり、苦しい時に励まし合ったりしながら、少しずつ全員で戦えるチームになってきたと思います。自分たちはまだまだ未熟で、苦しい場面では弱さが出ることもあります。それでも、このチームで勝りたいという思いは、今までで一番強くなっています。また、応援してくださる方々の存在も、自分たちにとって大きな支えになっています。頑張っていると声をかけてもらえることも増え、その期待に応えたいという気持ちも強くなりました。

感謝の気持ちを忘れず、これからも仲間とともに成長し、目標に向かって挑戦し続けていきたいと思っています。女子は、昨年度人数不足もあり、公式戦で思うような結果を残すことができませんでした。しかし、その悔しさを糧に今年度では接戦を勝ち切り、目標としていた県大会出場を果たすことができました。以前はプレーがかみ合わず、自分たちの思うような試合運びがでない時期もありましたが、その都度話し合いを重ね、一人一人が自分自身の課題と向き合い練習に励んできました。そうした積み重ねが県大会出場という結果につながったのだと思います。この経験を通して「チームで勝つ」ことの大切さを改めて実感しました。上のレベルに進むほど、個人の力だけでは難しい場面も増えてきます。だからこそ「チームで戦う」ことを忘れず、これからの試合に臨んでいきたいと思っています。人数も増え、これまで十分にできなかった実践的な練習も取り組めるようになってきました。今後も、常に自分たちの課題を見つめ、

より高みを目指し成長していきたいと思っています。

■高校男子バレーボール部

高校男子バレーボール部は、「勉強と部活動の両立」、「One for all. All for one」をモットーに、「三重県ベスト8以上」を目指して日々活動しています。令和八年度は、Ⅲ年生五人、Ⅱ年生十三人、Ⅰ年生十五人の合計三十三人で活動しています。三十三人のうち十八人、つまり部員のおよそ半数がバレーボール未経験者ですが、努力次第でレギュラーに選ばれるチャンスがあります。実際に、未経験からスタートし、試合で活躍している選手もいます。

チーム全体の力が高まっています。そのため、私たちはポジション争いという「競争」を通して、お互いを高め合えるチームを目指しています。

さらに、バレーボールでは「声を出し、コミュニケーションをとること」がとても重要です。一人ひとりが周囲と関わりながらプレーすることで、良いプレーや粘り強さにつながります。そのため、練習から「声を出して、元氣よく取り組むこと」を意識しています。

令和七年度は、「東海私立高等学校男女バレーボール選手権大会」に出場しました。予選グループ戦敗退ではありますが、四チームによるグループ戦の中で二勝を挙げ、グループ第二位という結果を残しました。今後、仲間を大切にしながら良きライバルとして切磋琢磨し、一人ひとりが向上心を持って、チームの目標である「三重県ベスト8以上」を目指していきます。

目標の実現に向けて、粘り強いチームを目指すとともに、バレーボールをより楽しみながら、

これからも活動していきます。

■高校ハンドボール部

令和八年度、男女ともに多くの新入生が加入し、男女併せて六十名弱がハンドコートに立つこととなりました。新入部員の入部動機に「練習の雰囲気が見えそうだった。」という意見が多く、部活の普段の雰囲気

が、男子は全国選抜三重県予選でベスト4に入ったこともあり、県総体では東海大会出場を目指しておりました。しかし、ベスト4をかけた試合で競り負け、第五位入賞に終わりました。女子は初戦を一点差で勝ち切り、二回戦に進みましたが、県二位のチームとの対戦ということもあり、敗退となりました。男女とも高田高校ハンドボール部らしく最後の笛が鳴るまで戦い続けることができ、悔しさは残りましたが、良い顔で引退して

きました。

新チームは上級生が少ないこともあり「当たり前」の活動を当たり前」をテーマに活動して

きました。部活動中の雰囲気は今までにないぐらい、楽しくできていますが、メリハリをつけることが課題です。男女の垣根なく、支えあって、高田高校ハ

■高校サッカー
部活動について

男子サッカー部顧問 若林 広繁

ンドボール部として、お互いに積極的にコミュニケーションをとりながら、少しずつチームとしての完成に近づいています。中学校の部活動が地域移行していく中で、部活動の在り方が問われている今ですが、高田高校のハンドボール部らしく、男女ともに周囲から応援されるチームを目指しています。先輩方が築いてこられた伝統を大切にしながら、さらに向上心を持って、より良い部活動を目指して日々精進しています。ハンドボールを通して、生徒たちには様々なことを学び、成長をして、次のステージに進んでほしいと願っています。

もしお時間ございましたら、是非ハンドボールコートに足を運んでください。皆様の応援が活力となります。



高田高校男子サッカー部は、今年度で創部三十三年目を迎えることになりました。今年度は三年生十六名、二年生十三名、一年生二十五名の計五十四名で活動しています。今年度も「文蹴両道」をモットーに掲げ、勉学に励みながら、勝負にこだわっているチーム作りに取り組んでいます。また、チームのスローガンである「不撓不屈」を信念とし、県内の強豪校に打ち勝てるようなチーム作りを目指して日々練習に励んでいます。昨年度、男子サッカー部は三重県サッカーリーグ三部リーグ十二チーム中六位という成績となり、二部リーグ昇格はできませんでしたが、十月に行われた三重県高校サッカー選手権大会では、津工業に敗れたものの二年連続ベスト16まで勝ち進めることができました。昨年度の悔しさを糧に、今年度の部員達もまずは「二部リーグ昇格」「ベスト8の壁を突破するこ

と」を目標に掲げています。現部員達は先輩たちの残してくれた伝統を大切に受け継ぎながら、新たな記録を築き上げるため、チーム一丸となり、全力で勝利を目指していきます。今後、今まで以上の好成績を残していきたいよう指導に励んでいきたいと思っています。

本学サッカー部は、誰からでも応援されるチームになるため、チームの一員として何事も全力で勝ちにいく闘う姿勢、他者を思いやり感謝する気持ち、そして生涯サッカーを愛し続ける気持ちを大切にしながら、「全員サッカー」を発揮できるチーム作りを目指しています。高田高校の一員としての誇りを持ち、いっそうの努力を忘れず、部員指導者共々日々精進していきますので、今後ともご支援ご声援の程よろしく願います。

■高校なぎなた部

現在、十一名で活動しています。昨年は七年ぶりに団体でインターハイ出場を果たしました。結果は一回戦敗退となりましたが、高校から競技を始めた三年

生が堂々たる成長を見せてくれました。また、全国選抜大会のブロック推薦枠決定戦では、引退した部員にも協力を仰ぎ、厳しい状況下で出場権を勝ち取ることができました。今後は東海総体の優勝旗奪還、そして全国大会入賞を目指し、日々の稽古に励んでまいります。今後とも温かいご声援をよろしくお願いいたします。

【主な戦績】

・東海高等学校総合体育大会

女子個人	三位	武田 清奈
団体	三位	木下 佐弥
		前田 郁葉
		小林 由奈
		谷 香澄
		武田 清奈
		谷野 由依
		吉岡 紗希

■高校新体操部

新体操部です。本年度も部員一同、部活動と学業の両立を目指し、日々練習に励んでおります。

昨年度は、高校三年生の選手が山口県で開催されたインターハイにおいて個人総合優勝をすることができ、二連覇を果たしました。また、ジュニアから社会人まで各世代のトップ選手が集う全日本選手権大会では、種目別ロープおよびクラブで優勝することができました。今年度は個人競技に加え、団体競技に

・全国高等学校総合体育大会

演技の部	出場	武田 清奈
		吉岡 紗希
		木下 佐弥
団体の部	出場	前田 郁葉

・第二十一回全国高等学校なぎなた選抜大会

団体の部	出場	武田 清奈
		谷野 由依
		吉岡 紗希

女子個人の部

出場	武田 清奈
	吉岡 紗希

谷 香澄
武田 清奈
山下 怜那
吉岡 紗希
服部 桃果

おいてもさらなる高みを目指してまいります。

また、令和六年度より男子新体操が国民スポーツ大会に再採用されました。昨年度は本校新体操部から五名が出場し、三重県として準優勝という結果を収めることができました。国民スポーツ大会では、個人だけでなく団体での得点も重要となるため、現在は大会に向けて団体競技にも力を入れて練習に取り組んでおります。

最後になりますが、新体操部OBの皆様には日頃より温かいご支援・ご声援をいただき、誠にありがとうございます。今後各種大会において審判等のご協力をお願いする機会があるかと存じますが、その際は何卒よろしくお願いいたします。

また、お時間ありがとうございました。第三体育館の常設フロアでの練習や大会にもぜひ足をお運びいただけますと幸いです。

■高校生花部

生花部は、毎週月曜日に池坊華道の細川知子先生にお越しいただき、生け花に勤しんでいま

す。日々の活動は、はじめに花材の説明と生け方の例を教えていただき、部員各自が工夫しながら思い思いにお花を生けます。途中で迷ったりわからなくなったりしたら、先生からアドバイスをいただき、各自が完成したと感じたら、一人ずつ先生から手直しした方が良いところを教えていただき、完成させます。

同じ花材を同じ花器に生けますが、実に多様な作品が出来上がります。それぞれの作品を鑑賞し合うのも楽しみの一つです。また、三年生では、お免状取得に向けて、生花(しょうか)という型に則った生け方の練習も行います。三年生では、ほとんどの生徒がお免状を取得しており、高校卒業後も大学の部活動で続けたり、個人のお稽古として継続したりする部員もいます。

日々の活動の成果を発表する場は文化祭です。一年生は同じ花器と花材で生けて、それをつなげるようにして一つの作品に見えるように展示します。二・三年生は全く違う花器と花材で生け、多様な作品を展示します。

週に一回、放課後の一・二時間をゆったりとした時間の流れの中で、まっすぐに生花と向き合う。顧問として、そんな生徒の様子を見ていてうらやましくなります。また、特に厳しく指導したわけではありませんが、後片付けや最後の挨拶など、穏やかにきちんと行っていく姿からもよい部活動だと感じます。

多様な部活動がある中で「生け花」と出会った部員たちが、卒業後も日々の生活の中で「花のある暮らし」を続けていくことができることを願っています。

■高校書道部

普段の活動は、展覧会に向けた作品制作や文化祭での書道パフォーマンスを行っています。作品制作では、半紙サイズの小さな紙から二メートル以上の大きな紙にも揮毫します。活動日には、真剣に作品に向き合う部員の姿を見ることが出来ます。

一方で、和気藹々とした様子も多く見られ、先輩後輩関係なく部員同士、非常に仲がよいことも特徴です。

昨年は、第三十四回国際高校

生選抜書展(書の甲子園)にて十五名が入賞・入選し、団体の部で四年連続東海地区優勝に輝きました。また、全国書道展で文部科学大臣賞を受賞することでもできました。

書道の魅力は本当に奥が深く、たとえどれだけ学んだとしても尽きるものではありません。その魅力を今後は多くの人に伝えていけるように頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、部員、指導者ともに日々努力を重ねていきますので応援のほど宜しくお願い致します。

■高校演劇部

二〇二五年度も演劇部にとって歴史的な年でした。高田高校史上初、三重県史上初、中部日本ブロック史上でも初の二年連続全国大会出場を果たしたからです。演劇部にとって全国大会出場はきわめてハードルが高く、愛知・岐阜・三重・石川・富山・福井から一校のみ、全国でも十二校しか出場することができない夢の場所です。そんな夢の舞台、全国大会は七／二十六

(土)二十八(月)、香川県のサンポートホール高松で行われ、優良賞を受賞しました。たいへん貴重な経験でした。

全国大会が終わると、次の大会シーズンが始まります。十／二十五(土)二十六(日)に三重県総合文化センター小ホールで行われた第七十三回三重県高等学校演劇大会で四年連続となる最優秀賞を受賞(これも史上初のことです)。その後、十二／二十四(水)二十六(金)に愛知県の穂の国とよはし芸術劇場PLATで行われた第七十八回中部日本高等学校演劇大会に出場し、奨励賞を受賞しました。特に三重県総合文化センター小ホールでは立ち見も出るほどの大盛況で、たくさんのお客様のみなさまにご覧いただけたいへんうれしいです。ありがとうございます。

また、三月末に行われた春大会でも金賞を受賞しました。ここ四年の演目を挙げてみます。「群青アクアリウム」「色々々々々々」「第七十六回中部日本高等学校演劇大会 文部科学大臣賞受賞作品」「ダンダン

学大臣賞受賞作品」「ダンダン

男バスバスガス爆発ガール」春

大会では「たかだかたかだ」『タカダジェンヌ』『デデッデッデッデデデデデデグチ』『ツ。』（たぶん）近畿地方のある場所について……ちょっと楽しそうじゃないですか？こんな風に、振れ幅の広いお芝居をやっています。全員、高校から演劇をはじめたメンバーです。ぜひ一度、本館五階講堂をのぞいてみてください。また、上演情報はホームページでも随時更新いたします。ぜひ会場までお越しくださいませ。生徒たちの充実した活動のために、物心両面でのご支援賜れますとたいへんありがたいです。

■高校仏青インターアクト部

「ボランティアで見つけた

本当の大切さ」

Ⅲ年D組 岩井 愛奈

私たち仏青インターアクト部は三年生九人、二年生十四人、一年生八人の計三十一人で活動しています。主な活動内容は本校で行う仏教行事の準備や町内の清掃活動などのボランティア

活動です。

昨年度も多くの活動に参加しましたが、その中でも特に印象に残った活動についてご紹介します。一つ目は「おやかで学ぼう赤十字フェスティバル」です。令和八年三月二十日に、三重県津市にある、日本赤十字社三重県支部・三重県赤十字血液センターで行われました。私たちは三つのグループに分け、センター内の倉庫の見学の補助、スタンブラリーのゴール地点の補助、そして受付を行いました。

こちらは、日本赤十字社の活動を多くの方に知ってもらおうと計画されたイベントですが、補助をさせていただいた私たちも多くのことを学びました。実際災害が起きた際の日本赤十字社の活動として、現地での支援活動があります。私が担当したセンター内の倉庫の見学では、この災害時の日本赤十字社の活動を知ってもらうために、親子で考えながら非常用持ち出し袋に「自分が」必要だと思うものを入れるという体験の補助をさせていただきました。災害時には非常用持ち出し袋に三日分の食

料が必要です。それに加え、水

も一日あたり二リットル必要、そしてタオル、といったようにたくさん持つていく必要があります。子どもたちはおもちゃやカードゲームも袋に入れており、年代によって必要なものが異なるのだなあと気づきました。体験に参加されたご家族は、大半が非常用持ち出し袋を準備されていたのですが、賞味期限を見ていない方や、寝袋とか入るのか分からず途中までしかしていないという方もいました。その方々に、職員の方がアドバイスしたり、個々に対応されていた。いつ災害が起こるか分からない不安の中、安全な今、できることを考え直すきっかけになり、子どもたちと触れ合い、話したりすることで、子どもたちの視点を知ることができました。

二つ目は「一身田寺内町まつり」です。令和七年十一月十六日に高田本山山門横で、チャリティーバザーを行いました。バザーでは、高田中・高等学校の生徒、職員のみなさんから寄付していただいた物品、そして津

北ロータリークラブのみなさん

からいただいた商品を、仏青インターアクト部で値付けし販売しました。みなさまのご協力により、四八、二四〇円を売り上げることができました。津北ロータリークラブの方々が売りやすい方法を考えてくださり、手伝っていただいたおかげで、開店前から多くの方に並んでいただき、二時間ほどで売り切ることができました。ここでの売上金は全て「三重いのちの電話協会」に寄付し、後日贈呈式を本校で行いました。「三重いのちの電話協会」は、悩みを抱える人の相談を電話で受け支援する活動を行っており、私たちがその活動のお手伝いをさせていただけるということがとても光栄なことだと感じました。

私自身、そして部員も、最初は「誰かのために何かをした」という気持ちよりも「経験になるからやってみよう」という軽い気持ちでボランティア活動に参加した人が多いです。しかし、実際に活動を重ねていく中で、その考えは大きく変わりました。活動先でさまざまな人

と関わることで視野を広げるこ

とができ、相手の立場で考えることができるようになりました。ボランティアは小さな行動の積み重ねでもあります。すぐに目に見える変化が起こるわけではありませんが、一つ一つが、やがて信頼となり、相手の気持ちを理解し寄り添った行動につながるのだと感じました。

AIが有能とされ、活用されている現代社会では、人と人とのあたたかい繋がりを生み出すボランティアの役割は、これまでに以上に重要になると思います。仏青インターアクト部がそのような存在になれるよう、これからも活動を続けていきます。

■高校将棋部

四月二十五日・二十六日に行われた第六十二回全国高等学校将棋選手権大会三重県予選において、本校将棋部は男子団体戦・女子団体戦で優勝、さらに女子個人戦では優勝と準優勝を果たし、八月三十一日から秋田県で開催される全国大会への出場権を獲得しました。部員たちは全国大会での入賞を目指し、日々

真剣に練習に励んでいます。

主な活動は、放課後に約二時間の練習を行うほか、年に数回、プロ棋士による指導を受ける機会もあります。男子部員は有段者が多く、互いに競い合いながら実力を高めています。実戦形式の練習を中心に、目標に向かって楽しく活動しています。

今年度は実力のある男子生徒・女子生徒も新たに入学しました。新戦力の加入により、部全体の活気もさらに高まっています。部員・指導者一同、さらなる高みを目指して努力を重ねてまいります。今後とも将棋部の活動へのご声援をよろしくお願いいたします。

■高校クリケット愛好会

OB・OGの皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、私たちクリケット部へ多大なるご支援と温かいご声援を賜り、部員一同、心より厚く御礼申し上げます。

さて、我がクリケット部は今年度、創部二十周年という大きな節目を迎えました。ゼロから

部を立ち上げ、今日まで情熱を注いでこられた先輩方の歩みを思うと、その歴史の重みを肌で感じずにはいられません。二十年という歳月の中で、道具の一つひとつ、そしてこの部特有の自由で温かな雰囲気は、歴代の先輩方が大切に守り抜いてこられた「伝統」そのものです。私たちは今、そのバトンを次代へと繋いでいく責任と誇りを胸に、日々の練習に励んでおります。

現在の活動におきましては、例年通り、静岡県富士市で開催される大会への出場が大きな柱となっています。富士山の麓、素晴らしい環境の中でプレーできる喜びは、部員にとって何物にも代えがたい経験です。大会を通じて他の高校や多国籍の方々と交流を深めることは、私たちの技術のみならず、精神的な成長や多文化交流に対する意識にも繋がっております。

さらに本年度は、特別な取り組みとして「アジア大会」への参加が決定いたしました。私たちはボールボーイとして運営を支える大役を担います。国際的な大舞台で世界のトップ選手の

プレーを間近に支えるという経験は、非常に貴重な機会です。競技の奥深さを学ぶとともに、クリケット界の発展に寄与する

という意識を持って、全力で務めてまいりたいと考えております。

こうした活動ができるのも、ひとえに基盤を築いてくださった先輩方の存在があつてこそです。二十周年という節目にあたり、改めて感謝の念を深くするとともに、これからもクリケット部が皆様にとつての「帰る場所」であり続けられるよう、全力で邁進してまいります。所存です。

Ⅱ年A組 堀田 颯乃助



国際交流委員会

藤 山 真 澄

本校では、生徒が幅広い視野と柔軟な思考力を身につけるとを目標に、多様な国際交流活動を展開しています。令和七年度も、さまざまな形で国際交流プログラムを実施しました。

九月には、オーストラリアの姉妹校であるパレードカレッジおよびセントモニカカレッジからの受け入れを行いました。両校から生徒十三名と教員が来校し、本校生徒十三名がホストとして迎えました。校内見学や授業参加、本山参詣に加え、文化祭や部活動への参加、さらに伊勢・鳥羽や京都への研修を通して、日本の文化や学校生活を体験してもらいました。日常生活を共にする中で生徒同士の交流は一層深まり、英語による実践的なコミュニケーション能力の向上とともに、相互理解の重要性を実感する機会となりました。

さらに三月には、本校生徒による両校への訪問を行いました。

高校1年生八名、四年生四名に加え、引率教員四名が参加し、現地校での授業参加や市内研修を通して、実際の生活に根ざした英語運用能力を高めました。海外の教育環境の中で学ぶ経験は、生徒に新たな視点をもたらす、自らの進路や将来について主体的に考える契機となったと考えられます。受け入れと訪問の双方を経験することで、両校と本校との交流はより一層深いものとなっています。

また、七月二十一日から八月七日にかけては、イギリス・ハートフォードシャーにおいて語学研修を実施しました。参加者二十五名は寮に滞在しながら、現地の語学学校におけるインターナショナルクラスで他国の生徒とともに学びました。授業のみならず、日常生活のあらゆる場面で英語を使用する環境に身を置くことで、生徒は実践的な言語力を高めるとともに、自立心や異文化への適応力を養いました。また、多様な価値観に触れることで、国際社会の一員としての自覚を深める貴重な機

会となりました。

加えて、長期にわたる学びとしてターム留学を実施しました。中学三年生七名が一月二十四日から三月二十九日までニュージーランドに滞在し、Northcote College、Henderson High School、Avondale College、Cambridge High Schoolに分かれて現地校の授業を履修しました。現地の生徒と同じ環境で生活しながら学ぶことで、語学力の向上にとどまらず、主体的に考え行動する力や異文化を受け入れる柔軟性が養われました。長期間にわたる海外生活は、生徒にとって大きな成長の機会となっています。

そのほか、四月十七日には台湾の華江高級中学より生徒三十五名、教員二名、スタッフ一名、ガイド一名が来校しました。本校の高校四年生、五年生、Ⅱ年生と交流し、授業参加や特別授業を通して学びを共有しました。短期間ではありましたが、互いの文化や学校生活について理解を深める有意義な交流となりました。

また、六月十一日には、東ヘルシンキ音楽院の吹奏楽団「イーストウインド」による演奏会を本校講堂で開催しました。十二歳から二十歳までの演奏者五十八名による演奏は大きな感動をもたらしました。本校生徒が英語で曲や楽器の紹介を行い、すべて英語で進行された演奏会は、音楽鑑賞にとどまらず異文化理解の場としても大きな意義をもつものでした。

さらに、七月にはアメリカのセントモニカ高校とのオンライン交流会を実施しました。自己紹介や学校紹介、趣味についての対話などを通して、生徒は英語で自分の考えを伝える経験を重ねています。直接対面することとが難しい距離にあっても、継続的な交流を可能にする手段として、オンラインでの活動は重要な役割を果たしています。

これらの国際交流活動を通して、生徒たちは語学力の向上のみならず、多様な文化や価値観を理解し尊重する姿勢を身につけています。今後も本校は、国際社会に対応できる人材の育成

を目指し、より一層充実した国際交流教育を推進していきます。

令和 7 年度 国際交流教育活動

華江高級中学（台湾）来校	令和 7. 4 月 17 日	生徒 35 名、教員 2 名、スタッフ 1 名、ガイド 1 名来校／高校 4 年・5 年・Ⅱ 年と交流
東ヘルシンキ音楽院イーストウインド演奏会	令和 7. 6 月 11 日	演奏者 58 名／中 1 ～中 3 参加
イギリス語学研修	令和 7. 7 月 21 日～8 月 7 日	25 名参加
セントモニカ高校オンライン交流会	令和 7. 7 月 23 日・25 日	本校 60 名（高Ⅰ・4 年・Ⅱ）／セントモニカ高校 69 名
オーストラリア交換留学受入れ	令和 7. 9 月 13 日～22 日	留学生 13 名＋教員／ホスト生 13 名
オーストラリア交換留学（訪問）	令和 8. 3 月 13 日～26 日	高Ⅰ 8 名・4 年 4 名
ターム留学（ニュージーランド）	令和 7. 1 月 24 日～3 月 29 日	中 3 7 名

短大だより

令和 7 年度の進路状況について

キャリア支援センター

樹心同窓会会員の皆様には、平素より学生の就職活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

令和 7 年度卒業生の三月末進路状況についてご報告します。

全体では、卒業生 241 名（昨年度 223 名）に対して、就職希望者 230 名（同 213 名）、就職決定者 229 名（同 208 名）、未内定者は 1 名（同 5 名）、就職率 99.6%（同 97.6%）となりました。また、県外への就職は 15 名（同 4 名）と増加し、県内就職率は 93.4%（同 98.1%）となりました。なお、進学者は 2 名（同 1 名）、家事従事・アルバイト等は 9 名（同 9 名）でした。

次に学科別の状況についてご説明します。

◇子ども学科

卒業生 137 名（昨年度 135 名）のうち、幼稚園に 11 名（同 8 名）、保育所に 85 名（同 62 名）、認定こども園に 25 名（同 36 名）、児童養護施設等に 4 名（同 11 名）、障がい者支援施設

に 3 名（同 7 名）、公務員（事務）を含む一般企業等に 3 名（同 6 名）がそれぞれ就職しました。四年制大学への編入が 1 名（同 1 名）、家事従事・アルバイト等が 5 名（同 4 名）で未内定はなし（同なし）、就職率は 100%（同 100%）でした。

専門職としての就職者は全体の 97.7%（同 95.3%）と高率です。また、市町公務員試験でのべ 41 名（同 25 名）が保育士・幼稚園教諭職に合格し 35 名（同 21 名）が正規で、16 名（同 5 名）が会計年度任用職員として就職しました。なお、卒業生について市町公務員試験でのべ 2 名が保育士・幼稚園教諭職に合格し 2 名が正規で就職しました。人口減少に伴う公立保育施設の廃止・統合や民営化により、公務員の募集は全体的に減少傾向にあります。

◇キャリア育成学科

オフィスワークコース

卒業生数は 68 名（同 56 名）で、卸・小売業 21 名（同 13 名）、運輸・情報通信 3 名（同 4 名）、製造 13 名（同 8 名）、金融・保険 3 名（同 3 名）、医療・福祉 16 名（同 10 名）、鉱業・建設 1 名（同なし）、不動産・賃貸 3 名（同なし）等、計 60 名（同 48 名）が一般企業等に、うち 3 名が公務

(三重県1名、三重県警察1名、大阪府警察事務1名)(同3名)に就職しました。進学者はなく、家事従事・アルバイト等は2名(同5名)、未内定は1名(同3名)で、就職率は98.5%(同94.1%)となり、昨年より増加しました。

◇キャリア育成学科

介護福祉コース

卒業生36名(同32名)で、30名(同28名)が、老人介護施設または医療機関に、2名が一般企業に(同なし)、1名が公務(松阪市会計年度職員1名)(同2名)に就職し、未内定はなし(同なし)でした。就職率は100%(同93.4%)でした。障がい者支援施設への就職は2名(同3名)、また、家事従事・アルバイト等は2名(同なし)でした。なお、卒業生のうち、外国人留学生は7名(同6名)でした。

求人状況については、本年度、保育所・幼稚園・児童養護施設から719人(同755人)、一般企業から336人(同477人)、福祉(老人・障害)

施設から223人(同238人)の求人がありました。依然、保育関連、企業、福祉施設とも全体としては売り手市場の状況に変わりはありませんが、学生の

意識や考え方がますます多様化するとともに、困難を抱えている学生も増えている印象があり、丁寧な就職支援が必要であると考えています。

結びに、樹心同窓会会員の皆様におかれましては、社会に羽ばたいたばかりの後輩たちを引き続き暖かく見守るとともに、厳しくご指導賜りますようお願い申し上げます。キャリア支援センターからの報告いたします。

■短大部会だより■

堀内 由香里

高田樹心同窓会短大部会が設立されて、五十年以上の年月が経ちました。当時、勤めていた園の先輩の先生からお声がけいただいた私は、短大部会に参加いたしました。

この約五十年の間には、卒業時に理事の役を引き受けてくださった多くの方々に集まっていた。ただき短大部会を開いたり、短大部会が中心となって卒業生が集う会をもったりしたことが、今も思い返されます。

そして五十年を超える年月の中では、多くの方々が学び舎から卒業され、活躍されてきました。昨年までは、卒業時に引き受けてくださった理事の方々に、高短祭(大学祭)に合わせた時

期に、高短祭のパンフレットや、短大部会の活動報告、高短祭で行っている短大部会のバザーへの協力をお願い、同窓会開催の補助申請について等を封書で送付してきました。前回、短大部会の活動内容を見直す旨をお伝えしましたが、今後、次のことを変更することと致しました。

一、高短祭での短大部会のバザーは、令和七年度で終了する

二、令和七年度以降、理事への文書発送は行わない

三、短大部会での同窓会開催の補助申請は、令和七年度末で終了する

四、今後、短大部会の会議は年一回行い、高田学苑樹心同窓会と円滑な連携をもつ

また、短大部会の活動等は、今後、高田学苑樹心同窓会のホームページでお知らせしたいと思えます。是非、高田学苑樹心同窓会のホームページをご覧いただき、様々なイベントや活動に奮ってご参加下さい。時代の流れと共に、新しい短大部会の在り方を今後も模索していきたいと思えます。これからも、皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

祝全国大会入賞

新体操部 Ⅱ年F組 山本 響士朗

インターハイ個人総合で二連覇と国民スポーツ大会で準優勝という結果を収めることができ、とても嬉しく思います。

インターハイでは、二年連続の三冠がかかっていたこともあり、これまでにないほど大きなプレッシャーを感じました。練習の中では思うようにいかず、行き詰まってしまうこともありましたが、監督やチームメイト、家族の支えのおかげで気持ちを立て直し、本番を迎えることができました。支えてくださった方々には心から感謝しています。

大会当日は、ライバルたちが先に演技を終え、自分に注目が集まる中での演技となりました。緊張もありましたが、「楽しもう」という気持ちで臨むことができ、会場全体を自分の空気にできた感覚がありました。この経験は、今後の大きな自信につながりました。

一方、国スポでは表彰台に上ることを目標にチーム一丸となつて挑みました。技術面や精神面の成長に加え、これまで以上に積極的にコミュニケーション

ンを取り、チーム力の向上を目指しました。その成果もあり、チームの雰囲気次第に良くなつていくのを感じていました。

しかし、大会直前に出場メンバーが負傷するアクシデントがあり、不安と焦りの中での準備期間となりました。本番では万全の状態とは言えませんでした。が、誰一人欠けることなく、お互いを信じて最後までやり切れたことが、準優勝という結果につながったのだと思います。

この二つの大会を通して、どのような状況でも諦めずに取り組めば目標は達成できること、そして自分はいく人にも支えられているということを改めて実感しました。

これからも、日々練習できるところや指導していただける環境を当たり前と思わず、感謝の気持ちを忘れずに努力を続けていきます。次の目標は「全日本選手権での優勝」です。どんな状況でも最後まで諦めず、目標に向かって全力で挑みたいと思います。

第七十六回中部日本高等学校演劇大会

文部科学大臣賞受賞作品のこと

演劇部 Ⅱ年E組 中村 優希

私たちは二年連続で全国大会に出場しました。二〇〇校以上

の加盟校を抱える中部日本プロックの中で一校しか出場することができない全国大会に二年連続で出場することは、史上初の快挙だそうです。そんな私たちは、私たちにしかできない表現を模索し、能登半島地震を題材に、喪われたものとあり得たかもしれない未来を描いた「第七十六回中部日本高等学校演劇大会」文部科学大臣賞受賞作品」という作品を上演しました。

全国大会という舞台で私たちの劇をたくさんの方にご覧いただき、とても嬉しく思います。他県の演劇部の上演も観て、想像を軽々と超えてくるようなお芝居の連続でとても面白く、感動しました。これからの活動に生かしていきたいです。昨年度の県大会から全国大会に至るまで多くの方々に支えていただきました。本当にありがとうございます。

また、中学放送部では第四十二回中学校放送コンテストでラジオ番組部門において二年連続の全国一位となり、部活全体が喜びにあふれました。

日頃の練習では、アナウンス班・機材班に分かれ、それぞれの班が一丸となって活動しています。アナウンス班ではお互いの原稿を聞き合い、意見を出し合いながら一人ひとりの表現を磨きました。機材班では、カメラや音声などの機材の扱い方から編集や構成の工夫まで、互いに教え合いながら理解を深めていました。こうした地道な練習と支え合いが、全国大会につながったと思います。

放送部 二年一組 大平 真季愛

「仲間と歩んだ放送部の日々」

放送部では、中高合わせて七十七名で活動しています。「伝える力で人の心を動かしたい」という思いを胸に、全国の舞台で自分たちの表現を届けることを目標に、日々練習に励んでいます。

には、それぞれの学校の個性と情熱が詰まっており、同じ目標を持つ仲間たちの姿に胸を打たれました。その中で自分たちの作品がスクリーンに映し出された瞬間、これまでの努力や仲間との時間が一気によみがえり、胸が熱くなったことを今でも鮮明に覚えています。

私は今回、テレビドラマとアナウンスの二部門を掛け持ちしました。テレビドラマでは主人公という大役を務め、感情表現や目線の使い方に悩む日々でした。一方でアナウンスでは、原稿を書いても何度でも添削を受け、納得するまで練習を重ねました。声が枯れるほど練習しましたが、その分だけ成長を感じることができました。両立は簡単ではありませんでしたが、仲間や顧問の支えがあったからこそ、最後までやり切ることができました。心から「ありがとうございます」と伝えたいです。

今回の経験を通して、「伝えることの難しさ」と「言葉の持つ力」を改めて実感しました。この経験を糧に、自分の声と表現で人の心に寄り添えるよう努力を続けていこうと思います。

これからも一つ一つの活動を大切に、応援してください。皆さんの期待に応えられるよう全力を尽くしていきます。

応援よろしくお願いします。

文部 樽松 望乃

美しいもの、悲しかったこと、恨んでいること、会いたいという痛切な願いの全てを私は残しておきたいと思うから、その小さな心の揺れをおさめるのにちょうど良い三十一文字の歌を私は詠むのだと思う。そう考えると私はすぐ自己中心的な人間だと思う。私は自分のためだけに歌を詠むのだから。

歌人の藪内亮輔さんは、「短歌とは濾過器である」と言った。混沌暗澹とし、時に希望すら絶望に埋没させてしまうようなこの世界から、美しいもの、信じられるものを抽出する。いや、良いものだけじゃない。呪詛も、嫌悪も、取り出して分析してみたらどんな怪物になるのだろうか。短歌を始めてから、私は言葉の不十分さを知った。自分の心に湧き出た感情を、ごく丁寧に言語化したところで、あなたには私の何一つとして伝わっていないのだ。私には、人間は全員

を隔つ薄膜が見える。薄膜、だけれど強固。私たちは別個の存在で、海に浮かぶ孤島である。

そんな私にとって、短歌は星だと思ふ。意識しないと見えないし、一生存在を認められない星もある。対して、願いを託される星もあるし、意味を与えられる星もある。

私が短歌を詠むのはただひとり、私のためである。だけど、短歌がもし星になれるのなら、私が示したごく一滴の世界が、誰かを救い、何かを気づかせ、混沌暗澹とした世界へ差し込む光になれるだろうか。

私が賞を受賞した理由というのを、ずっと探し続けていた。それこそ光一つない世界である。私は自身の薄膜に何度も足をとられる。私より優れた三十一文字使いが、世界にはいる。であるのになぜ、私が選ばれたのか。ただわかるのは、私の短歌が誰かにとっての星になったということ。偶然でも、たまたまでも、私は満足だった。私は自己中心的な人間だ。

私の放った言葉も、あなたが放った言葉も、誰かを突き動かす原動力にもならない。誰も振り返らない。まして、世界を少しでも良いように変えられるなんて、嘲笑、夢幻泡影、砂上

の樓閣である。私とあなたは何か絶対的なものに隔たれていて、手を差し出すことはできない。私は絶望する。分かり合いたいと思う。分かって欲しいと思う。だから、一種の抵抗として、私は、三十一文字で切り取った世界を残し続けようと思うのである。

『全国高等学校総合体育大会

柔道競技 女子63kg級ベスト8』

柔道部 Ⅲー 坂山 凜

まず、私をこれまでご支援いただいた高田学苑および樹心同窓会の皆様。高校に通わせてくれ、私に寄り添い続けてくれた両親。高校三年間、柔道部として熱心にご指導いただいた瀬戸先生、古田先生、川崎先生、上路先生、山口先生。そして、三年間、しんどいことも楽しいことも全てを一緒に乗り越えてきた同級生、尊敬する先輩方、可愛い後輩たち。そのほかにも、見えないところでたくさん支えていただいた全ての方に、心より感謝申し上げます。

インターハイという大舞台では、畳の上上がるのは自分一人です。しかし、この場に立っていたのは、今まで支えてくださった皆さんへの感謝があるからこそだと強く感じています。

私は、「結果でしか恩返しできない」と強く思い、日々の練習に励みました。気持ち的に辛い時もありました。「もう柔道なんてやめてやる」と思ったことは数えきれないほどあります。しかし、私がここまで来られたのは、瀬戸先生のご指導、仲間の支え、家族の温かさ、そして折に触れご支援いただいた樹心同窓会のみなさまのおかげだと確信しています。特に、怪我で試合が近いのに思うように稽古に励めなかった時は、本当に苦しく、情けなかったです。しかし、私は「怪我をしているから諦める」のではなく、自分にできることを必死に探しました。自分なりのトレーニング方法を工夫し、怪我を早く治すためにいつもより早く寝るなど、毎日の一つひとつに工夫を重ねました。そのおかげで、コンディションを試合に何とか間に合わせる

ことができ、県大会で目標とする先輩に勝つことができました。あの瞬間に、努力が報われる喜びを知ることができました。瀬戸先生は、自分の気持ちを大っぴらに言う方ではありませんが、誰よりも生徒思いの素晴らしい先生です。私たちの多少のわがままを素直に聞いてくださる一方で、稽古には一切の妥

協がありません。その厳しさの中に、私たちを密かに、深く思ってくださる愛情を常に感じていました。本当に、心から尊敬できる先生です。私の将来の目標は、大学でしっかりと学び、教員免許を取得し、瀬戸先生のような生徒思いの先生になることです。そして、大学を卒業した暁には、この高田高校柔道部の顧問となり、力量・人格ともに優れた後進の育成を通じて、高田学苑への恩返しをすることが私の目標です。

最後に、私を一番近くで支えてくれた両親へ。三年間高校へ通わせてくれたこと、毎日の温かい食事、仕事で忙しいのに時間を割いて部活を見に来てくれたこと、全てに感謝しています。いつか私が家庭を持ち、スポーツに打ち込む子どもができたときには、私の両親のように、優しく寄り添ってあげられる親になりたいと思っています。

今回、ベスト8という結果を残せたのは、決して私一人の力ではありません。支えてくださった全ての方々のおかげです。これから、柔道家としてもっと強く、そして一人の人間としてさらに成長できるよう、努力を続けていきます。

令和七年度 同窓会



	同窓会の名前	卒業年度	開催場所・日時
1	高田高校 3年D組 同窓会	高校S 63卒	都ホテル四日市
2	樹心同窓会 6年制部会	中6 H 1卒	ホテルグリーンパーク津
3	高田高等学校第32回卒業生 A～D組限定同窓会	高校S 55年	ホテルグリーンパーク津
4	高田 6年制同窓会 東京支部会	中6 H 8年	NATU LUCK神保町
5	高田中学3年制 S 46年卒 古希同窓会	中3 S 46年	プラザ洞津
6	中学3年コース第28期(S 50年卒) 66歳一区切り紳士・淑女の会	中3 S 50年	Jo's Bar
7	K・L組合同クラス会	高校S 41年	天ぷら さか本
8	高田中学3年制 S 53年卒 6年制 S 56年卒 合同同窓会	中3 S 53年 中6 S 56年	プラザ洞津
9	高校卓球部	中3 S 50年	ホテルグリーンパーク津2階 レストランみやび
10	樹心カップゴルフ愛好会	中3 S 50年	津カントリー倶楽部
11	第15回高田短大 一期生同窓会	短大保S 43年	ラ・プラティノ
12	高田短期大学 第9回卒業(昭和51年卒業)	短大保S 51年	高田会館
13	四樹会	高校S 40年	酔っ手羽 近鉄四日市店
14	昭和37年度卒 高田中学同窓会	中3 S 37年	プラザ洞津
15	高田中高等学校 55th同窓会	中6 R 7年	プラザ洞津
16	高田中・高等学校 37期生卒業 20周年記念同窓会	中6 H 18年	Party Restaurant REGOLITH
17	高田学苑 馬術部OB会		ホテルグリーンパーク津

会員交流会

高田俳句作品

山崎満世選

特選三句

初恋と私を攫って飛べツバメ

6e 樽松 望乃

ツバメの到来とともに春が
やってくる。その燕の素早さ、
鋭さ、は見事である。作者は燕

に向かつて、初恋と私をいつ
そのこと攫って欲しいと叫ぶ。
「攫って」の措辞がこの句の要
となつている。青春の憂愁と若
さがあふれている。

コーヒーを淹れてボンヤリ月の白

保護者 長谷川 敬子

「月の白」と白を強調する。

明け方の光景であろうか。コー
ヒを淹れてしばらく何するでも
なく、白い月を眺めている。空

は澄み切り無心のひとときを過
ごす。

玄関で蟬がいのちを散らしてゐる

4a 長谷川 瑛理

「いのちを散らす」の措辞に
一瞬軽い衝撃を受ける。対象は
蟬であるが、やはり終戦とか原
爆記念日がある八月、夏を背景
にして生きる措辞でもある。



事務局だより

昨年末、志田行弘前会長の訃報
に接し、深い悲しみに包まれまし
た。死の縁は無量（はかることの
できない）とはいえ、「まさか」
の厳しい現実言葉に言葉を失いました。
四月に会長にご就任され、これか
ら益々同窓会を盛り上げていきたく
いとの熱いお志であつただけに、
哀惜の中ただお念仏申されるばか
りです。

さて、本年四月より松田英明会
長が就任され、新たな一歩が始ま
りました。

あわせてホームページも一新さ
れ、より充実した情報発信に努め
てまいります。また、今年度は同
窓会名簿を発行いたしますので、
会員相互の交流や同窓会活動にご
活用いただければ幸いです。さら
に、同窓会事務、購買業務に野浪
藤代さんにお手伝いいただくこと
となりました。皆さまどうぞよろ
しくお願いいたします。

合掌

樹心同窓会協力金にご賛同いただいた会員の皆様

令和 7 年度

卒業年度順（敬称略）

令和 8 年 3 月 31 日現在

伊 藤 清 一（高校 S28）	山 際 克 弥（高校 H5）
志 田 行 弘（高校 S40）	杉 本 岳 大（中 6 H6）
東 畑 透（中 3 S41）	天 野 みのり（高校 H6）
山 中 利 之（中 3 S44）	辻 浦 重 紀（中 6 H10）
松 田 英 明（中 6 S45）	寺 村 京 子（中 6 H16）
服 部 正 美（中 3 S46）	村 田 祐 樹（短大 H18）
服 部 尚 子（中 3 S46）	大 江 健 吾（中 6 H21）
小 野 幸 子（中 3 S46）	井 田 嘉 也（中 6 H24）
日 置 雅 久（高校 S48）	宇 陀 萌 乃（短大 R8）
駒 田 兼 良（中 6 S49）	
北 山 順 一（高校 S49）	中 3 28 会（中 3 S23）
青 木 勝（高校 S49）	
村 主 英 明（中 3 S50）	
鷺 尾 尚 史（中 3 S50）	
奥 田 恭 子（中 3 S56）	
向 江 和 美（中 6 S59）	

協力金一覧



●ご協力いただき誠にありがとうございます●

協 賛 企 業 一 覧

(五十音順)

令和 8 年 6 月 10 日現在

名 称	名 称
愛 知 (株)	東邦ガスエナジーエンジニアリング(株)
ア イ ン ズ (株)	笑 旨 から あ げ 富 や X X
青 木 文 具 (有)	(株) ト ン ボ
(株) ア サ プ リ 三 重 支 社	ス ー パ ー ニ シ イ
荒 川 制 服 (株)	(株) 西 出
伊 藤 印 刷 (株)	日 本 土 建 (株)
津 伊 藤 販 売 店	(株) 白 揚 ブ ッ ク セ ン タ ー
(株) S D コ ン サ ル テ ィ ン グ	写 真 の は セ
M A グ ル ー プ	長 谷 川 体 育 施 設 (株)
岡 三 証 券 (株)	(有) 樋 口 商 店
岡 写 真 館	(株) 百 五 銀 行
オ ー ク ト リ ー (株)	藤 原 工 業 (株)
(株) カ ン キ ョ ー	(株) 武 道 東 海
近畿日本ツーリスト(株) 津支店	ブ リ ク ス ト ン
(株) 鴻 池 組	(有) 平 治 煎 餅 本 店
(株) コ ー ジ ン カ ン パ ニ ー	別 所 書 店
三 十 三 銀 行	ホ テ ル グ リ ー ン パ ー ク
三 和 書 店	本 の 王 国
(株) シ ス テ ム テ ク ノ	三 重 交 通 (株) 中 勢 旅 行 支 店
杉 新 衣 装 店	三 重 テ レ ビ 放 送
NPO 法 人 鈴 鹿 市 馬 術 協 会	三 重 ト ヨ タ 自 動 車 (株) 津 桜 橋 店
セ コ ム 三 重 (株)	ミ フ ジ (株)
(株) Z T V	ミ ヤ タ ス ポ ー ツ
瀧 本 (株)	リ コ ー ジ ャ パ ン (株)
千 巻 印 刷 産 業 (株)	(株) 有 宣 企 画
(株) 中 部 都 市 建 築 設 計 事 務 所	ヨ シ ダ 運 動 具 店
長 永 ス ポ ー ツ 工 業 (株) 三 重 支 店	(株) ラ イ フ プ ラ ン
(株) 津 ド ラ イ ビ ン グ ス ク ー ル	
(株) 辻 工 務 店	
(株) T & Y フ ー ズ	
東 海 土 建 (株)	
(株) 東 海 フ ォ ト デ ザ イ ン シ ス テ ム	

協賛金一覧



高田学苑
樹心同窓会HP



令和8年度

高田学苑樹心同窓会総会

令和8年8月2日(日) 午後3時～6時

総会

ホテルグリーンパーク津
(津駅前アスト津内)

6階 中宴会場

懇親会

ホテルグリーンパーク津
(津駅前アスト津内)

6階 大宴会場 (伊勢の間・安濃の間)

会費 3,000円

○総会・追弔会

○懇親会

HP内「総会ご
出席フォーム」
より申し込み
ができます

※お車で越しの方はアスト駐車場をご利用下さい。
※お酒が出ます。飲まれる方はお車での参加はご
遠慮下さい。



ふるさと津かがやき寄附

『三重短期大学及び
私立学校応援分』

の寄附募集の開始

令和4年4月26日より津市のふるさと納税
では、ふるさと津かがやき寄附「三重短期大
学及び私立学校応援分」の寄附募集が始まり
ました。これにより、津市以外の居住の方が
津市内の短期大学及び私立学校を指定して寄
附ができるようになりました。この制度を利用
して高田短期大学、高田高等学校の応援を
よろしくお願いいたします。寄付金についま
しては、教育環境整備事業に活用させていた
だきます。

詳細は津市のWEBサイトをご覧ください。

津市—ふるさと津かがやき寄附 (ふるさと納税)

city.tsu.mie.jp

■ 訃報 ■

※経年のご連絡分も含みます

吉長三谷北竹後藤鷺根伊水中藤久
田川谷川川藤谷尾来藤野尾本保
昭マ正克題弘秀弘辰為正吉義栄
二子勤紀巳正之隆文男雄善之寛一
(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)
31 30 30 30 28 28 27 26 26 26 24 22 20 20
高 高 中 中 中 中 高 専 高 高 旧 旧 旧 旧
校 校 3 3 3 3 校 門 校 校 中 中 中 中

出後永沢村土野須長谷草杉白杉鈴丹
口藤合井嶋谷呂藤川川森井本川羽
友雅真和泰康敏 栄ひろ慎勉
美子平人寿賀宏明徹勝徹子子一宏
(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)(S)
60 59 56 55 49 49 48 38 36 36 35 35 34 33 32
短 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 中
大 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校

ご受賞おめでとうございます

草川 徹様 (昭和36年卒)

ずいほうそうこうしょう

瑞宝双光章 叙勲



令和4年4月25日に受賞されました。

藤大岡中菊杉伊千山片 : 河北
善島田川間田藤草口山 : 浩峰
真寛真結康律哲正慶 : 浩峰
裕司次幾之子哉道子淳 : 浩峰



坂中 : 杉橋金山大江古
口高 : 本本丸本野淵谷
晴香先生 : あゆみ 晃 文 三 文 剛 淳

令和7年度退職教職員

Follow Me!

TAKADA JUSHIN
Instagram
はじめました!*ホームページアドレス <http://dousoukai.site/jushin/>*メールアドレス office-jushin@mie-takada-hj.ed.jp

*協力金振込口座 (1口 1,000円) ゆうちょ銀行 口座番号、記号 00870-1-125341 高田学苑樹心同窓会